

~~~~~

# 日本ギヤスケル協会

## 第29回 大会

~~~~~

日 時：2017年9月30日（土）午後1時より
会 場：熊本大学・黒髪北地区・くすの木会館（1階）・レセプション・ルーム
〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-40-1
担当者：大野龍浩（eph0429@kumamoto-u.ac.jp）

13:00 開会の辞

日本ギヤスケル協会会長 鈴木美津子（東北大学名誉教授）

13:10～15:25 シンポジウム

「群衆との対峙——ヴィクトリア朝の小説における都市の風景」

（司会・講師） 茨城大学教授 市川千恵子

（講師） 岐阜県立看護大学専任講師 木村 正子

（講師） 関西学院大学教授 伊藤 正範

15:30～16:00 総会

（司会）事務局長 石塚 裕子（神戸大学教授）

16:10～17:40 講演

（司会） 早稲田大学教授 大島 一彦

「ヴィクトリア朝小説の／を覗き見」

東京大学名誉教授 高橋 和久

17:40 閉会の辞

日本ギヤスケル協会副会長 大島 一彦（早稲田大学教授）

18:00～20:00 懇親会 会費 3,000円（くすの木食堂：TEL 096-346-2222）

問合先：〒657-8501 神戸市灘区鶴甲 1-2-1 神戸大学大学院国際文化学研究科 石塚裕子研究室
日本ギヤスケル協会事務局：secretariat@gaskell.jp

HP：http://www.gaskell.jp/

※会員外の方の参加も歓迎いたします。

「群衆との対峙——ヴィクトリア朝の小説における都市の風景」

ヴィクトリア朝の小説は、近代都市の風景の一部としての群衆が有する両義性、すなわち支配からの解放を求める労働者を中心とした革新的な連帯と、その感情構造の反近代的な祝祭性と集団暴力の様相を描き出している。本シンポジウムでは、各パネリストがギヤスケルの『北と南』を起点とし、19世紀末、さらに20世紀初頭までの小説において、群衆という近代的現象に、個人・社会がいかに対峙するのかを検証したい。(司会：市川千恵子)

木村正子「閉じられた群衆」から「開かれた群衆」へ——ギヤスケル作品における女性たちの群衆体験」

ギヤスケル作品における群衆は、資本家に遺棄された労働貧民の暴徒化した姿であり、資本家の責任を問うギヤスケルの姿勢には、群衆は制御可能であるという考えが示唆されている。そこで、階級が人々の立場を固定化する一方、その格差を共感として精神面で補填するギヤスケルのプロットに注目し、エリアス・カネッティの論に言及しながら、人々の群衆化を回避し、共同体の秩序維持に寄与する女性の行動について考えてみたい。

市川千恵子「傍観者から参加者へ——女性・暴動・ストライキ」

エンゲルスが1844年のロンドン訪問の際に覚えた不快感は、匿名の人々の群れが潜在的にもつ破壊力への恐怖に他ならない。『北と南』のヒロインが個人として労働者と向き合う行為は、こうした恐怖の克服となりえる。本発表は、小説に描かれる暴動とストライキを検討し、女性の周縁化から、マーガレットの血が象徴する境界侵犯を経て、参加者となる瞬間までをギヤスケルとマーガレット・ハークネスの「産業小説」における女性と労働の表象から考察したい。

伊藤正範「群衆の時代」へ——19世紀イギリス小説における群衆表象の変遷」

『北と南』において暴徒化した労働者の群衆は、マーガレットを傷つけたことをきっかけに鎮静化する。そうした描写には、一時的なジェンダー化とでも言うべき奇妙なダイナミズムが作用している。本発表ではギヤスケルを起点に、ディケンズ『バーナビー・ラッジ』からハーディ『日陰者ジュード』、コンラッド『密偵』に至るまでの群衆表象を俯瞰し、19世紀から20世紀初頭にかけての現実世界における群衆の変遷が、フィクションにどのように取り込まれていくのかを探る。

16:10～17:40 講演

高橋和久「ヴィクトリア朝小説の／を覗き見」

ヴィクトリア朝小説の専門家ではありませんので、ちょっと覗き見することしかできません。でもふと考えてみれば、小説を読む行為というのは他人の人生を覗き見する快感に支えられているような気がします。それならば小説内で他人の生活を覗き見したり、盗み聞きしたりする行為は読解のアレゴリーと言えそうですが、それが常に探偵のように正義や善意の名のものに行われるわけではなさそうです。

というようなことを頭の片隅で意識しながら、シャーロック・ホームズ以前の探偵行為もしくはそれを促す謎がどのように描かれているかを覗き見したいと思っています。

10月1日(日)のエクスカージョン

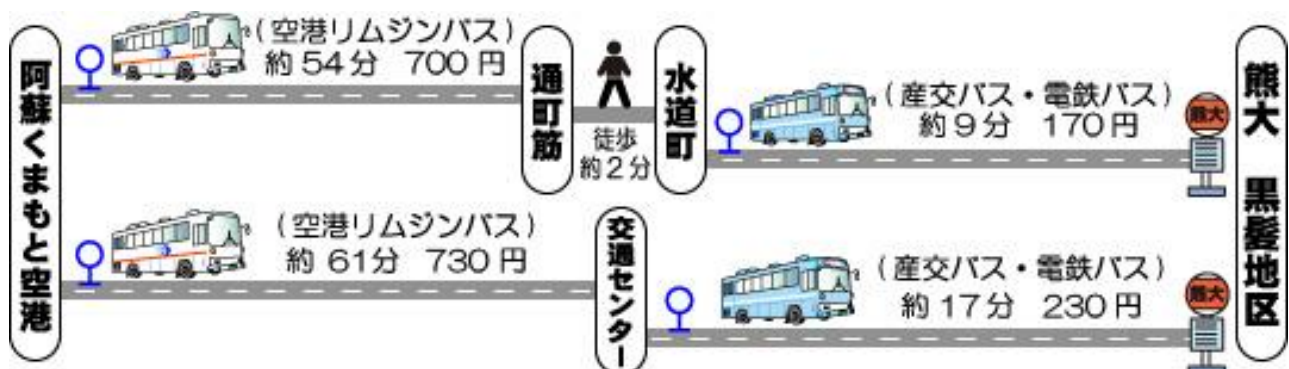
レンタカーもしくは自家用車で、熊本城、漱石旧居、八雲旧居、阿蘇方面(大観峰、草千里、中岳火口、高森田楽の里、白川水源など)にご案内したあと、熊本空港、および熊本駅までお送りします。旅程の詳細は別紙「エクスカージョン案内」を参照ください。参加ご希望の方は9月15日(金)17.00までに下記までご連絡ください。催行人数3~6名。参加費は、自家用車の場合は無料、レンタカーを利用する場合は3,000円程度。昼食代や施設への入場料は各自お支払いください。

E-Mail: eph0429@kumamoto-u.ac.jp Phone/Fax: 096-342-2450

交通アクセス

阿蘇くまもと空港から

○空港リムジンバス熊本駅行き「通町筋」下車、「水道町」から産交バスで楠団地、武蔵ヶ丘等(子飼橋経由)「熊本大学前」下車

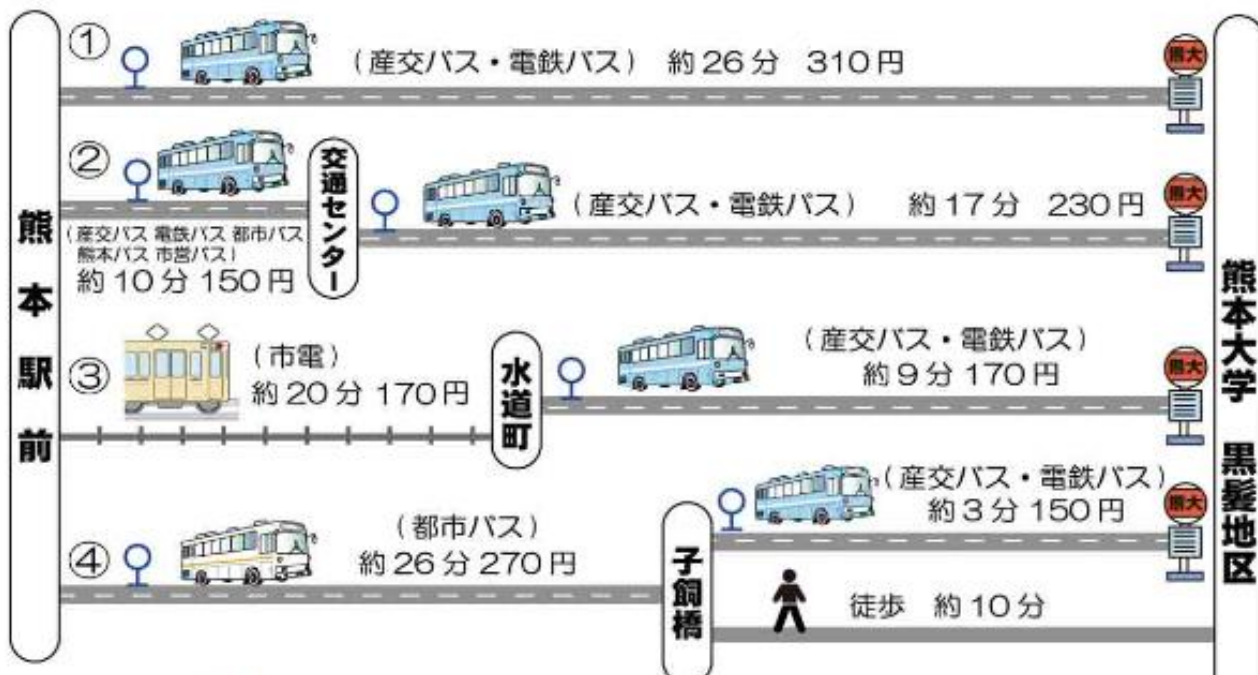


JR 熊本駅から

○産交バス: 楠団地、武蔵ヶ丘等(子飼橋経由)「熊本大学前」下車

○都市バス: 第一環状線[駅2](大学病院・大江渡鹿経由)「子飼橋」下車徒歩10分

○市電+産交バス: 市電の健軍行きに乗車し「水道町」で下車。産交バスへ乗換。水道町バス停より、楠団地、武蔵ヶ丘等(子飼橋経由)「熊本大学前」下車



水道町バス停乗り換え案内



- 熊本駅前から市電をご利用の方は、水道町電停で下車し、水道町交差点横断歩道を渡り、水道町バス停でお乗り換えください。
- 空港リムジンバスをご利用の方は、通町筋バス停で下車し、水道町交差点横断歩道を渡り、水道町バス停でお乗り換えください。

熊本大学黒髪北キャンパス



キャンパスマップ (黒髪北地区)



日本ギヤスケル協会第29回大会エクスカーション案内

日時：2017年10月1日（日）9:00-18:00

集合場所：熊本大学北地区キャンパス全学教育棟前

おおよその旅程は以下のとおり。諸事情により変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

※で集合写真。写真をご希望のかたは、eph0429@kumamoto-u.ac.jp（大野龍浩）まで。メールでお送りします。緊急時の連絡先：080-5217-7565（大野携帯）。

9.00 熊本大学発（遅れないように集合してください）

ご希望があれば、熊本市内にある熊本城、夏目漱石旧居、小泉八雲旧居を見学します（震災の影響により、中には入れない可能性があります。6月末現在、外からのみ見学可能です）。

10.00 大観峰（阿蘇五岳が一望できます）※

11.00 草千里（のどかです）※

12.00 中岳火口（ガスの発生状況によっては、近寄れない可能性もあります）※

13.00 高森月廻り公園（「新・くまもと百景」で堂々一位。根子岳を望むパノラマがすばらしい）※

14.00 高森 田楽の里（昼食：お奨めは囲炉裏を囲んで食べる「田楽定食」（1,890円）。母屋の築年数は200年以上）

15.30 白川水源（熊本市内を流れる白川の水源地。日本名水百選の一つ。日本一うまい水と評判）※

17.00 熊本空港

18.00 熊本駅

